



学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、人としての基礎・基本を身に付け、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる心身ともにたくましい児童の育成を目指す

○思いやりのある子ども ○じょうぶな子ども
○進んでやりぬく子ども ○よく考える子ども

学力向上にかかわる学校経営計画

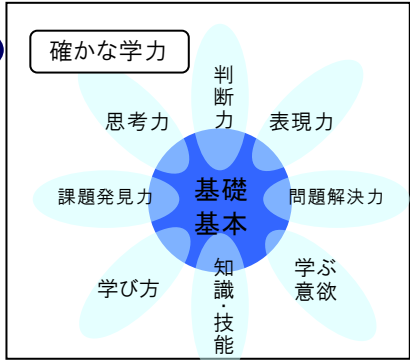
○児童の実態から指導方法の工夫、評価の改善に努め、学習意欲を向上させ、各教科の基礎的、基本的な内容の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力の育成を図る。

○全国および東京都の学力調査の結果を活用するとともに、普段の授業における児童の習熟状況を把握し、一人一人の児童にきめ細やかな指導の充実を図る。

○各教科の評価規準を活用し、児童一人一人の学習状況を確実に評価する。

本校における確かな学力

自ら課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力



- 【 各教科の指導の重点 】**
- ・ 体験的な学習や基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習を通して、学習意欲の向上、学習内容の確実な定着、思考力、判断力、表現力の育成を図る。
 - ・ 算数科においては、指導法工夫改善教員、学力向上支援講師を活用し、少人数学習集団による指導、チーム・ティーチングによる指導を行い、習熟度や興味関心に基づくきめ細やかな指導を行う。
 - ・ 小中一貫教育に基づく全教科にわたる小中一貫プログラムの開発および指導方法の共同研究を行い、9年間を見通した学力の向上を図る。
 - ・ 国語科における伝え合う力の育成および各教科等の特質に応じた言語活動の指導の工夫による思考力、判断力、表現力の育成を図る。

道徳の指導の重点	外国語・外国語活動の指導の重点	総合的な学習の時間の指導の重点	特別活動の指導の重点	生活指導の重点	進路指導の重点
学校教育全体を通じて、それぞれの教育活動の特質に応じて行う道徳教育と、それらを補充、深化、統合する道徳科の充実を図り、道徳性を育成する。 道徳的な課題に一人一人の児童が自分事として向き合い、多様な考えに触れながら自己の生き方についての考えを深める道徳科の指導を推進する。	外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、聞く力などを育てる指導の充実を図る。 日本語とは異なる外国語の音に触れ、外国語を注意深く聞いて相手の思いを理解しようしたり、他者に対して自分の思いを伝えることの難しさや大切さを実感したりしながら、積極的に自分の思いを伝えようとする態度を育成するための指導の充実を図る。	体験的な学習に取り組み、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動となるよう充実を図る。 体験活動や調べる活動等を通し、必要な情報を集め得られたものを整理・分析したり判断したりしながら、既習の知識や経験と結び付け、自分の考えや意見、発見したことなどをまとめ、表現する指導の充実を図る。	児童の自主的、自立的な活動を重視し、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育て、生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う指導の充実を図る。 学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする態度を育てる。	児童一人一人の人格を尊重しながら、規範意識を育むなど社会的資質や行動力を高める指導の充実を図る。 児童の実態を把握し、いじめや不登校等の未然防止に努め、学校全体で組織的な指導を行う。学校教育相談機能を充実させ個に応じた指導を推進する。	各教科等の指導を通じて、学習課題や活動を選択したり、自らの将来について考えたりする機会の充実を図る。 学級活動等において、自己の悩みや葛藤、将来の夢などの課題を積極的に取り上げ、考えを深める指導の充実を図るとともに、家庭や地域と連携した指導を行う。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・方法の工夫	教育課程上の工夫	校内における研究や研修	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
○個に応じた学習の充実 ・ 補充的な学習や発展的な学習を設定していく。 ・ 算数の習熟度別少人数指導を通して、児童の実態に合わせた学習を進める。 ・ 校内研究での成果や各教科、領域での研究を活かし、指導方法の工夫・改善を目指す。 ○授業改善推進プランの活用	○朝学習の充実 ・ 漢字や計算、読書など基礎的・基本的な学習および発展的な学習の充実を図る。 ○個に応じた指導の充実 ・ 一人一人に応じたきめ細やかな指導を行うため、第3学年以上の算数科においては、学力向上支援講師を活用し、習熟度別指導を充実させる。	○自分の考えをすすんで伝えようとする児童の育成 ・ 学年ごとに設定した段階的な目標を踏まえ、ICTの活用や全員挙手などの共通した取組を通し、授業研究を進める。 ○ICT活用研究 ・ 授業におけるタブレットの活用方法について、公開授業の実践や校内研修を通して研修し、広めていく。 ・ プログラミング教育についての校内研修を推進する。	○基礎的・基本的学力の定着 ・ 評価規準を活用し、指導と評価が一体となった教科指導計画に基づき定着の状況を確認し、一人一人に応じたきめ細やかな指導を行い、学力の向上を図る。 ○授業における学習状況の把握 ・ 授業における学習状況を小テスト、机間指導、ノート指導、発表等を通してきめ細やかに把握し、個に応じた指導の充実を図る。	○学校行事および授業公開 ・ 学校公開、学校行事、道徳授業地区公開講座等、常に学校を開くとともに、アンケートなどから期待や要望を受け止め、授業改善に生かす。 ○学校評価の活用 ・ 学校評価の結果を分析するとともに学校関係者評価委員会に説明し、学校の自己評価と合わせて教育課程の改善および授業改善に生かす。	○乗り入れ授業の工夫 ・ 中学校の施設等の特色を生かし、5・6年生の児童が興味関心を高め中学校への円滑な接続と9年間を見通した系統的な授業を推進する。 ○小中連携における研究 ・ 「相互理解・相互尊重・協働」と「言語活動の充実」を柱に授業改善を図り、主体的に学ぶ意欲を高める。

指導内容・方法の工夫

国語科指導の工夫

「言語活動」の指導の充実

国語科の目標には、「言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育成するとある。また、知識・技能を修得するのも、これらを活用し課題を解決するために思考し、判断し、表現するのもすべて言語によって行われるものであり、これらの学習活動の基盤となるのは、言語に関する能力であることから、言語に関する能力を育成する中核的な教科である国語科を中心として言語活動の充実を図る。

■■■授業改善の具体策■■■

国語科の学習における「話すこと・聞くこと」「書くこと」および「読むこと」の各領域において、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる言語の能力を身に付けさせるため、日常生活に必要とされる記録、説明、報告、紹介、感想、討論など、学校や児童の実態に応じて言語活動の充実を図る。

《各領域における言語活動の具体例》

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
第1・2学年	紹介など伝えたいことを話したり、聞いて感想を述べたりする	紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりする	事物の仕組みを説明した文章や科学的な内容の本を読み、分かったことや感想を述べる活動。
第3・4学年	説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする	疑問に思ったことを調べて報告する文章を新聞に書いたり、お礼の文章を手紙に書いたりする。	記録や報告の文章を読み、考えたことや意見を述べる。
第5・6学年	調べたことやまとめたことについて討論などをする	事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く。	物語や伝記を読んで内容を説明したり、考えたことを伝え合ったりする。

「読むこと」の指導の充実

文章の詳細な読み取りに陥ったり、叙述に基づかない「思いつき発言」に終始してしまつては、意図的・計画的な指導は展開されず、子どもたちに「読む能力」を育むことは難しい。「読む能力」を育むことは、現在、国を挙げて取り組んでいる「読解力」の育成にもつながるものであり、指導の充実を図る。

■■■授業改善の具体策■■■

「読むこと」で身に付ける事項は、学習指導要領に下のように示され、重点的に取り扱う必要がある。「読解力」を育むためには、教材文が「分からない」から「分かる」へ、更に、「分かる」から「より分かる」ように子どもを変容させていくことが必要である。そのために、「文章を読み解く視点」を教材文に合わせて意図的・計画的に示し、深い読解ができる授業を行う。

《読むことで身に付ける事項》

第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
事柄の順序 場面の様子 ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。 など	段落相互の関係 中心となる語 要約 ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。 など	事実と感想・意見の関係 要旨の把握 ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 など

社会科指導の工夫

資料活用の段階的指導

社会科においては、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視されており、系統的、段階的な資料活用能力の育成を図る。

授業改善の具体策

各学年の段階に応じて、観察、調査したり、地図や地球儀、統計、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用したり、社会的事象の意味や働きなどについて考え、表現したりする力の育成するための指導の充実を図る。

第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を読み取る 資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる 必要な資料を収集する 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を読み取る 資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる 必要な資料を収集する 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を読み取る 資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる 複数の資料を関連付けて読み取る 必要な資料を収集したり選択したりする 資料を整理したり再構成したりする 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を的確に読み取る 資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる 複数の資料を関連付けて読み取る 資料の特徴に応じて読み取る 必要な資料を収集・選択したり吟味したりする 資料を整理したり再構成したりする

問題解決の過程を意識した指導

「問題」「予想」「調査」「結果」「結論」という問題解決的な過程を意図的に授業に位置付ける。ワークシートやノートを使用する際も「問題」「予想」「調査」「結果」「結論」などの記述を積極的に取り入れさせるようにし、問題解決の過程を児童に意識付ける指導を行う。

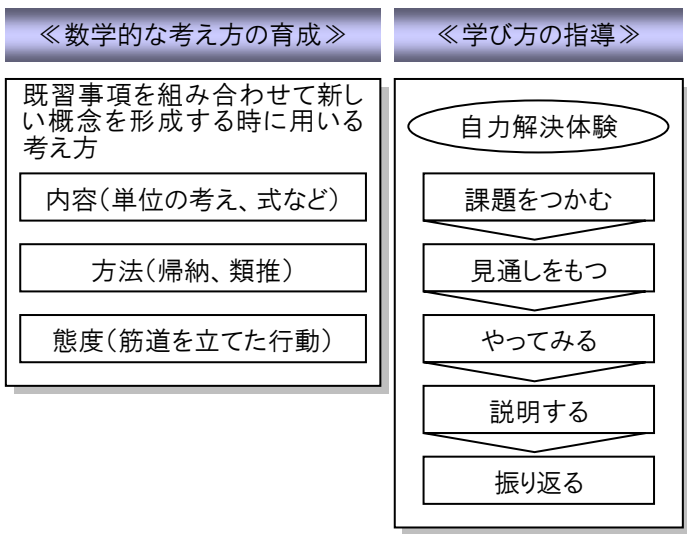
算数科指導の工夫

問題発見・解決能力を身に付けさせる指導

算数科においては、問題を解決したり、判断したり、推論したりする過程において、見通しをもち筋道を立てて考えたり表現したりする力を高めていくことを重要なねらいとしている。既習の学習内容を基に考えさせたり、既有経験を生かして問題解決させたり、体験的に理解することを通して自ら課題を見付け、主体的に問題を解決する能力を身に付けさせる指導を行う。

授業改善の具体策

「課題をつかむ」「見通しをもつ」「やってみる」「説明する」「振り返る」などの問題を解決する過程を意識的に授業に位置付け、見通しをもち筋道を立てて考える力を育成する。また、児童が具体物や半具体物を用いたり、言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いたりして、自分の考えたことを表現したり、友達に説明したりする作業的・操作的・体験的な学習活動を取り入れ、テープ図や線分図、数直線などを操作的な「問題解決のアイテム」として使いこなせるよう、継続的、発展的に指導を行う。



理科指導の工夫

「科学的な思考力・表現力」を育てる指導

理科において、各学年で重点を置いて育成すべき科学的な思考力は右のように示されており、理解においても問題解決的な学習が重視されている。児童が自然の事物・現象に関心を持ち、そこに問題を見出し、解決する方法を考え、観察・実験などを行うことにより結果を得て、解決過程や結果について相互に話し合う中から、結論として科学的な見方や考え方をもちとすることができる指導を行う。

■■■授業改善の具体策■■■

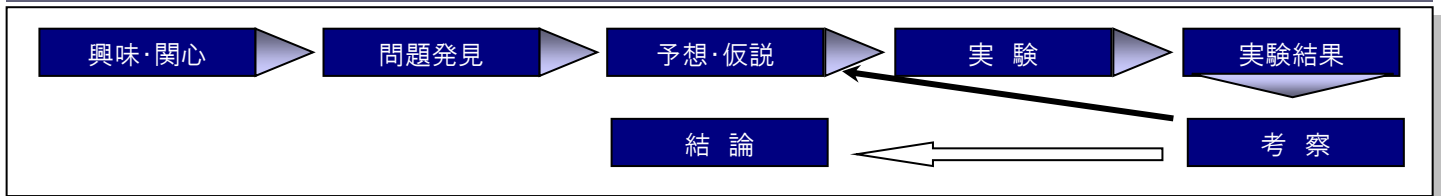
学習ノートやワークシートを使用する際にも、「問題」「予想」「実験」「結果」「結論」などの記述を積極的に取り入れるよう働きかけ、問題解決の過程を児童にも意識付ける指導を行う。また、何が同じで何が違うのか(比較)、変化を引き起こす要因は何か(関係付け)、どの条件を変えて比べるのか(条件制御)、いくつかの結果から分かることは何か(多面的追求)など、学年に応じて児童に働きかける視点を明確にし、科学的な思考力を育む指導を行う。

また、観察・実験において、結果を表やグラフに表したり、予想や仮説と関係付けながら考察を言語化したり、モデル図に表したりして表現することを重視し、言語活動の充実を図る。さらに、問題解決的な学習方法について、中学校との接続を図る。

《各学年で育成する科学的な思考力》

第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
比較	関係付け	条件制御	推論

《理科における問題解決の過程》



授業改善推進プラン＜学年別＞

04 練馬区立豊玉第二小学校

1年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は平仮名・片仮名の学習、言語指導に時間を要するため、読むことや書くことの指導時間を十分にとれなかった。音読・繰り返し練習は宿題で補うようにした。 ・発表することはできるが、伝え合いの力が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語指導の時間は、基礎学習の時間を活用する。 ・読むこと、書くことを計画的に指導する。 ・伝え合いの活動を入れ、隣同士のペア、グループ、クラス全体と段階的に人数を増やすことで心的な抵抗をなくし、技能を引き上げていく。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の技能が十分とはいえない。 ・問題の読み取りや立式の力が全体的に不十分である。自分で問題文を読んで意味を理解できない。 ・個人差が大きく、個別指導が必要な児童がかなりいて、支援が不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日計算カードを使った計算の宿題を出し、継続的に行わせる。 ・なかなか計算力が身に付かない児童には、具体的な操作活動を多く取り入れ、理解を助ける。 ・問題文の意味を正しく理解できるように、キーワードに着目して取り組むように支援する。 ・一斉指導とともに、進度に応じた個別課題や個別学習の場を設定する。可能な限り支援員の学習支援を得られるようにする。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の草花等の環境の関係で、計画通りに進められないことがあった。 ・感染症予防のため、夏の遊び等実施できない内容があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に合わせて、見直しをもって児童の実態に合った内容を計画する。 ・感染症予防対策を取りながら、その代わりとしてねらいに沿って実施できる内容・活動を考えて取り入れていく。(例 色染め・押し花等) 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽の鍵盤ハーモニカでは、正しい運指や息づかいで演奏することに課題がある児童がいる。 ・歌唱では、正しい音程で歌ったり、まわりの音をよく聴いて合わせて歌ったりすることが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機を用い、児童が正しく運指や鍵盤の位置を覚えられるようにする。必要に応じて個別指導を行う。児童同士での教え合いができるよう座席の工夫をする。 ・良い表情で歌っている児童や大きな口を開けて歌っている児童を前に出して歌わせ、その良さを他の児童が模倣できるようにする。自分の声と教師の範唱を比較して歌う活動を取り入れることで、音程のずれを児童自身が認識できるようにする。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣や体験の違いにより、道具や材料の取り扱い方に幅がある。 ・初めて扱う材料に不安な気持ちをもつことがないように、安心して取り組めるような環境設定が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や季節の行事と関連づけた課題を取り入れ、共通の体験をする。 ・題材の導入時に、取り扱う道具や材料の基礎を養う課題を用意し、造形遊びを中心とした活動で、道具や材料の取り扱い方を自然に身に付けさせる。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・かけっこやマットを使った運動等において、感染症予防のため、実施や運動量の確保の兼ね合いが難しい。 ・体を動かす楽しさを味わう運動・友達とかかわり合う運動・基本的な動きを身に付ける運動を意図的に取り入れたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の運動経験を踏まえ、無理のない範囲でグループ分けや児童同士の教え合いなどを取り入れる。 ・学習カードを工夫し、児童が運動に主体的に取り組めるようにする。 	

授業改善推進プラン＜学年別＞

04 練馬区立豊玉第二小学校

2年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防のため、グループの伝え合い活動は十分にできていない。 ・漢字の定着に個人差が見られる。4、5月に習う漢字の書き順があいまいになっている児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策をした上で、可能な範囲で話し合い活動の機会を増やしていく。(コロナの感染状況が落ち着いてくれば、積極的にグループでの話し合い活動を取り入れていく。) ・漢字スキルなどを活用し、授業や家庭学習を通して繰り返し練習させるようにする。また、間違いの多い漢字が出てきたら、その都度クラス全体で確認する。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・計算力には個人差が見られ、部分的に個別的な指導が必要な児童がいる。 ・計算力はあっても、文章問題の立式を苦手としている児童が一部見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や家庭学習を通して、基礎基本が身に付くよう、反復練習をさせる。 ・問題文を書くときに、分かっていることと、問われていることを区別して書くようにさせるとともに、必要に応じて図や絵に表すことで問題の場面を理解できるようにさせる。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大により町探検の校外学習が実施できていない。そのため、町探検に関わる学習を、教室で地図や写真を活用したり、児童の経験を想起させたりすることで実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の単元を入れ替え、他の単元を先に実施するようにする。また、感染症拡大が収まり、校外学習が実施できる状況になれば、感染症対策をした上で、町探検の校外学習を実施し、受け入れてもらえる施設のみでも見学に行き、学習を進めていく。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、範唱をよく聴いて正しい歌詞やリズムで歌うことができるようになってきているが、フレーズを意識したり、曲に合った発声で歌ったりすることにはまだまだ課題がある。 ・器楽の鍵盤ハーモニカでは、技能の差が出始めている。運指も難しくなってくるため、混乱してしまう児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のまとまりを生かして歌詞を音読する活動を取り入れたり、ブレスの位置を意識しフレーズのまとまりを感じとらせる。また、音符についての学習の中で各音符の長さに注目させ、演奏に活かすようにしていく。 ・実物投影機を用い、運指の確認を丁寧に行う。個別学習の時間を取り、児童同士の教え合いも取り入れながら少しずつ定着させていく。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・全体に多少の幅はあるものの道具や材料の取り扱い方は身に付いてきている。描いたり、作ったりしたものを見て、作品の良さに気付いたり、関心をもったりする機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作過程の中で楽しく見る機会を増やす。時に応じて交換カード等も使う。友達の良さを見付け自分の表現に生かしたり、自分の見方・感じ方を確かめたりできるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクを外して思いきり運動する機会が減っているため、体力の低下を感じる。 ・思いきり跳んだり、ボールやフラフープなどの用具を使ったりする運動に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の時間の運動量を増やすとともに、休み時間も天気の良い日は外で体を動かして遊ぶようにさせることで、体力の向上を図る。 ・体づくり運動の基本的な動きは、体育の授業の中で繰り返し取り入れるようにし、運動の感覚を身に付けられるようにする。 	

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

3年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くときに習った漢字を活用することができない。 自分の意見をうまくまとめられない児童がいる。 作文を書く際に、自分の意見を筋道立てて書くことができる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習の際に、頻出単語を取り上げる。 書き方を理解させるために、作文指導を行う。5W1Hを意識させて、文章を書かせたり、文章構成を指導していく。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地図などの情報をもとに、自分たちの生活に学習した知識を関連付けることがあまりできない児童がいる。 地図やグラフなどの読み取りができない。 コロナの影響で、見学に行くことができないので、実感を伴った理解が深まらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容が児童の生活経験と結び付くように授業の展開を工夫する。また、自分たちの住んでいるまちに関心をもてるようにする。 地図やグラフの読み方を提示し、児童自身で読み取る活動を増やす。 児童の身近な資料を用意したり、動画を見せたりして授業を行う。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に基礎的な知識や技能を習得しているが身に付いていない児童もいる。 課題の意図をつかめない児童や言葉の支援が必要な児童がいる。自力解決に意欲をもち発表もすすんで行うが、解決方法を筋道立てて表現することは、まだ十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別算数を通して、個別の指導をしていく。 教材を工夫し、アレイ図や数直線などを活用して、個々の支援を行い、積極的に問題解決に取り組めるようにする。課題の題意を捉える時間を確保し、問題を整理しながら筋道を立てるよう支援していく。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験に興味、関心をもち、意欲的に取り組んでいるが、観察、実験から得たことを考察することが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験から得られた知識が、身近な生活の中でどこで生かされているかを児童に想起させる。また、授業のまとめにおいて、学習した知識を児童に質問しながら知識の定着を図る。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 器楽のリコーダーでは、運指は定着してきている。息の入れ方や穴のふさぎ方に課題があるため、音が安定しない児童が多い。 リズム譜は、ほとんどの児童が正しく読むことができるが、階名を正しく読むことはまだ不十分である。 歌唱においては、元気いっぱいな声で歌う児童がまだ多く、響きの統一された歌声にしていくことが課題となっている。 鑑賞においては、感性を働かせて自分なりに曲の背景を想像したり、感じ取ったことをワークシートに記入したりすることができる。しかし、曲の雰囲気・表情などと音楽の構造との関わり合いを捉えながら聴くことはまだ難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏する際の姿勢や口周りに余計な力が入っていないかを、確認しながら練習させる。継続した練習の大切さを説明しながら根気強く取り組ませる工夫を行う。また、個別指導でそれぞれのつまずきに応じた支援を行う。長期休業中を利用し家庭での練習にも取り組ませる。 階名読みを定着させるためにフラッシュカードを用いて、クイズ形式で確認する時間を設けたり、時間を設定して階名読み集中して取り組めるワークシートを用意する。 聴き合う時間を適宜とり確認させながら響きのある歌声にまとめていく。 児童から出た意見が、感じ取ったことなのか、聴き取ったことなのかを整理し板書するようにする。また2つがどのように関わり合っているかを理解させ結びつけていく。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや願いを生かしたものを作ったり、表したりすることには、積極的かつ意欲的である。描いたり作ったりしたものを見て、作品の良さに気付いたり関心をもったりする機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作過程の中に、楽しく見る機会を増やす。時に応じて鑑賞カード等も使う。友達の良さを見付け、自分の表現に生かしたり、自分の感じ方を確かめたりできるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組む児童が多い。運動が得意な児童と不得意な児童の二極化が見られる。 ボールを狙った方向に投げられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な技能が身に付いている子には、安全面を考慮して、さらに発展的な運動ができるようにする。 友達同士で支え合ったり教え合ったりする仕組みを作る。 体を回転させたり、体重移動を意識させたりして投げることを指導する。 	

授業改善推進プラン＜学年別＞

04 練馬区立豊玉第二小学校

4年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字が定着しない児童がクラスに数人おり、文章の中で正しく使うことができるように漢字の習熟に関する指導を充実させる必要がある。 ・物語文などの読み取りを広める際に、発言する児童が一部に偏ってしまいがちである。 ・自分の考えを文章に表せない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の小テストを定期的に行う。 ・漢字ドリルや漢字ドリル用ノートを使って、日常的な指導を図る。 ・教材研究をし、読み取りを深められるような授業の展開(個人一ペアー全体)をし、学び合いの場面を取り入れていく。 ・感想の書き方や要点のまとめ方を提示し、慣れさせていく。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習や新聞やレポート等にまとめることはとても意欲的に取り組めるが、自分たちの生活に関連付けることがまだ不十分である。 ・今年度は、見学を実施できていないため、出前授業を頼んだり、映像などを見せたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入から自分たちの生活に結び付けられるような発問をする。 ・ICT機器を活用して写真や映像などを見せ、できるだけ教科書以外からも子供に情報が入るようにし、身近なものや社会的な事象とを関連付けて考えさせたり、自分たちで実践できることを考えさせたりする。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能の習得に差がある。 ・自力解決のとき、解決方法がなかなか見いだせない児童や、考えをうまく書けない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・位取り表のような半具体物を用意し、支援が必要な児童に対し個別の支援を行うようにする。また、教材教具を工夫し、操作を通じて自力解決していけるようにする。 ・前時の学習を振り返るとともに、既習事項をもとにして問題を解決するように授業展開を工夫する。 ・自分なりの解決方法を見いだせるように、自力解決の時間を多く確保する。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験に興味・関心をもって意欲的に取り組めるが、取り組み方や記録の仕方には個人差が見られる。問題解決的な活動に沿った学習がまだ十分定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験の方法・記録の仕方について、挿絵を用いながら、視覚的に分かりやすいようにする。また、問題解決的な学習を繰り返し、理解の定着を図るとともに、問題解決型の学習に慣れさせていく。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽ではリコーダーの技能面での個人差が大きい。運指や息づかいのコントロールが難しい児童が見られる。 ・歌唱においては、正しい音程をとることが難しい場合もあるが、斉唱から部分二部合唱へと発展させた学習へと進めている。 ・鑑賞においては、ほとんどの児童が曲の特徴を捉えたり、感じ取ったことをワークシートに書いたりすることができる。しかし、感じ取ったことと、音楽の構造とを関わらせながら聴くことが課題としてあげられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導でそれぞれのつまずきに応じた支援を行う。また、児童同士で教え合う時間を確保しながら進めていく。適宜、補充学習を行う。 ・自分の声をよく聴き、音程のずれを認識できるよう、教師と児童が交互に歌ったり、友達同士で聴き合ったりする活動を取り入れる。また発声などの基礎学習を計画的・継続的に行う。 ・児童の意見を板書する際に、曲想と音楽の構造に整理しながら書くようにする。また2つがどのように関わり合っているかを考える場面を設定し結びつけられるようにしていく。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや願いを生かしたものを作ったり表したりすることには、積極的かつ意欲的である。友達と協力したり、認め合ったりして学習する関係づくりが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作過程の中で、工夫した表し方や道具や材料の取り扱い方の良さを取り上げて、全員で共有する。作品を見る機会を増やし、制作過程などの良さや、いろいろな表し方のあることに気付かせ、自分の表現に生かすようにさせる。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・大縄の八の字跳びでは連続跳びができる児童が多くなってきたが、まだ連続して入れない児童が数人いる。 ・積極的に取り組んでいるが、どの活動においても技能面には個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ練習を取り入れた際に個別に指導をしたり、どのようにしたら連続跳びができるようになるか話し合いを設け、子供たち自身に課題を意識させ、自分たちで主体的に活動に取り組んだりするようにさせる。 ・めあてをもって運動に取り組むことができるようにする。 	

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

5年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動については、互いの立場や意図を明確にした上で、考えを広げたりまとめたりすることが苦手である。 文章の読み取りについては、文章の内容を的確におさえることが苦手な児童への手だてが必要である。 筆者の主張に対する自分の考えを、文章に表すことが苦手である。 語彙力が少ない。読書を通じて語彙力を豊かにする必要がある。 漢字の定着に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもち、意図を的確に伝えられるように、ワークシートなどを活用する。自分の意見と友達の意見を比べながら聞くようにし、考えを広げる。 文章の展開をおさえながら要旨をつかみ、それに対する自分の考えを書いたり、話したりする活動の場を設定する。 読んだ本の紹介をし合って読んだ本の魅力を伝える活動を取り入れる。 小テストを行い、漢字の定着を図る。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> どの児童も自分たちの生活とのかかわり合いを考えながら、学習を深めることができるようにする工夫が必要である。 産業に従事している人々の工夫や努力について、具体的に調べることができるようにする。 資料やグラフから気付いたことや分かったこと、考えたことを、自分の言葉で書けない児童への手だてが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや表など資料を正確に読み取れるように、クラス全体で確認する。人々の工夫や努力に気付いたり、より具体的な内容に注目したりすることができるように話し合いをする機会を設ける。 資料から気付いたことや分かったこと、考えたことなどを書き出し、自分の言葉でまとめる活動を取り入れる。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 既習の学習を生かし、自分の考えをノートに書いたり説明したりすることを苦手としている児童が多い。 要求されたとおりの正確な図形を作図することができない児童への手だてが必要である。 基本的な計算の技能の定着が不十分な児童が授業中につまずかないようにするために、個に応じた手だてが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の確認を丁寧に行い、学んだことを基に考えていけるようにする。 正しい器具の使い方をその都度確認し、定着を図る。 計算問題は、反復練習を行うことにより定着を図る。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決型の学習が定着していない。生活経験や様々な情報を基に、見通しをもって観察・実験を行うなど、問題解決の活動を行っていくことが必要である。 観察・実験の結果を基に、学習の振り返りや次の問題を発見などを行う考察ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の予想や結果の記録ができるように、条件や方法、結果など、思考の流れを分かりやすく表現するノート指導を丁寧に行う。 自分で調べたり観察したりして得た情報を整理し、主体的に問題解決できるように、考える時間や話し合う時間を十分に確保する。また、知識だけでなく、自分の言葉で表現できるようにする。 実験の技能が高まるように、教材や器具の充実を図る。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 英語の発音や、基本的な表現には、個人差が大きい。 外国語活動指導員の役割が单元ごとに明確化されておらず、より効果的な指導体制の構築のため、外国語活動指導員との指導内容の共有をどう進めていくかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や文字のカードやCDを活用して英語の音声や基本的な表現に親しみやすく学習する。 互いの活動や役割をパターン化して、効果的な指導ができるように工夫する。また、外国語担当教員を窓口とし、各学年の指導計画や指導内容について外国語活動指導員と打ち合わせる。 	

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

5年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱においては、音程をとることや、自然な発声で歌ったりすることが難しい場合がある。また二部合唱では音程が不安定で声量がなくなってしまう。 ・器楽においては技能面で個人差があり、特にリコーダーでは運指や適切な息づかいで吹くことに難しさを感じている児童がいる。 ・ト音譜表を読むことには慣れてきている。一方、ヘ音譜表に関してはまだ読めない児童が多い。 ・鑑賞においては、強弱や速度、音の重なり方などの曲の特徴を捉えることができるようにはなっている。学習したことを自分の言葉でまとめていけるようにしていくことが課題としてあげられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の動きを手で表現したりと視覚的にも捉えるなど、耳だけの感覚だけではなく覚えさせていく。各パートの旋律を自信をもって歌えるところまで歌わせ、合わせる楽しさを味わわせながら取り組ませていく。 ・個別に補充学習を行ったり、児童同士の教え合いも行いながら技能面での個人差をうめていく。 ・階名や音符に慣れるための教材(プリントやフラッシュカード)を使用する。 ・学習したことを自分の中で思考し定着しているか確認しながら学習を進めていく。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な能力は、児童による多少の幅はあるものの身に付いてきている。 ・造形的向上学習の積み重ねを生かそうとする習慣に幅がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成長に応じた抵抗感ある素材を選択する。 ・時に応じて、用途等も考えて表すことができるような活動内容を設定する。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫の技能面では、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた課題設定を行うようにする。 ・グループ編成を工夫し、児童間で作業をサポートできるようにする。 ・学習活動の流れ、ポイントを児童が把握できるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール運動は好み積極的に取り組む。 ・鉄棒やマットなど器械運動に苦手意識をもっている児童も、意欲的に取り組めるようになるための手だてが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に基礎的・基本的な技能を身に付けさせるために、学習カードを工夫する。 ・めあてを明確にもたせ、振り返りを行っていく。 	

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

6年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感の低さが顕著である。 話し合い活動の取組が機能しない。 書くことにおいて、自分の経験に価値付けて、文章表現することが弱い。 読書の活動に興味・関心を示す児童とそうでない児童の個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学習活動を通しての取組を価値付け、児童の考えや思いから、学習計画や単元を通した問いを作成していく。 国語の「話す・聞く」学習で話し方名人、聞き方名人を提示し、年間を通して一貫した指導を行う。また、タブレットを通して考えや思いを共有できるツールの活用から話し合う活動の充実を図る。 題材の工夫をする。児童に身近な題材を考え、書くことへの意欲をもたせる。 本に触れる機会の充実を図る。図書室の活用や練馬図書館と連携し、児童の実態に合った図書の充実を図る。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を的確に読み取る技術が乏しい。 学習問題を設定したあと、追究していく意欲が単元を通して持続しない。 歴史的事象と現代社会を結びつけて捉えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書、資料を基に必要な情報を読み取る時間を十分に確保する。 歴史の単元では、人物調べを一貫して行う。歴史上の人物を調べることで時代の様子や功績などを追究して調べていく力を養う。 歴史的事象との結びつきを常に考えさせる問いを投げかけ、資料提示や映像資料などを活用して捉えさせる。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識・技能の定着が不十分である。 公式などおさえるべき事項は定着しているが、公式の意味や正しい立式につなげていくことができない場面が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的基本的な学習事項を確実に身に付けさせるように、少人数指導の充実(教材の工夫、個別指導)に努める。 公式の意味や必要性を考え、共通認識のもとで活用できるようにしていく。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決型の学習が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験や様々な情報を基に、見通しをもって観察・実験を行うことで、問題解決型の学習につなげる。 タブレットを効果的に活用し、観察・実験を行うためのツールにしたり、記録を取ったりして、問題解決型の学習につなげる。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 英語力の個人差が大きい。 スピーチをしていくための見通しがもてていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 協働的な学びができるように、能力がある児童をうまく活用し、グループで助け合って学習していくスタンスを取り入れる。 教師やALTがスピーチのモデルを毎単元準備し、イメージと意欲をもって取り組ませる。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱においては、自然な発声でのびのびと表現することができている。しかし、男子の中には変声期に入ったことで自信をもって歌うことができない様子の児童もいる。 器楽に関しては個人差が大きい。 鑑賞においては、曲想の変化に気付くことはできるが、その曲のおもしろさや美しさを感じ取りながら聴き良さを見いだしていくことにつなげていけると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 変声期を迎えた児童には、個別指導でその時期ごとの配慮を考えていく。変声期について全体で取り上げ、どの児童ものびのびと声の出せる雰囲気作りを行っていく。 個人の能力差を埋めるため、友だち同士で協力して音楽活動を進められるようにする。 音楽を構造的に理解できるよう、板書や視覚教材の工夫をする。曲を聴く際の視点を明確にすることで味わって聴き、良さを見いだせるようにする。 	

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

6年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
<p style="text-align: center;">図 画 工 作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な能力は、身に付いてきているが、個人差があったり教師の指示に頼ったりすることが多い。 ・自分の感覚や考えを大切に物事を捉えるのではなく、他から得た知識や友達の考えなどを基にして考えたり創造したりする傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じ、抵抗感ある素材でも選択を試みるよう助言する。 ・単元によっては、作品の用途等も考えて表すことができるような活動内容を設定する。 ・小学校卒業の節目を意識させることで、自分の感覚や考えを十分に働かせて取り組める題材設定をする。 	
<p style="text-align: center;">家 庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技能面での個人差が大きく、同じように課題に取り組ませることが難しい。 ・生活経験の違い、生活環境の違いを配慮して、指導計画を立てることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた課題設定を行うようにする。 ・グループ編成を工夫し、児童間で支援し合える環境を整備する。 ・教科等横断的な学習から生活と結びつけて指導を重ねる。 	
<p style="text-align: center;">体 育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・領域による苦手意識がある。 ・体力テストの結果から体力の全体的な低下が見られる。 ・体を動かす心地良さを味わえていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての領域において学習カードを作成し、課題や成果を見える化する。また、板書の掲示資料を用いて、学習の見通しをもたせる。 ・体力テストの結果を基に、体力の弱い部分を把握し、学習する中で身に付けさせる指導計画を立てる。 ・運動する楽しさを味わわせるために学級の実態や個人差を把握し、それぞれの技能に合わせた練習の場やトリオ学習の実践する。 	